

自治会活動
活性化の輪を
広げよう！

**魅力ある
自治会づくり
支援事業補助金
活用事例集**

令和6年度

みんなでまちづくり課
宇都宮市自治会連合会

この事例集について

この事例集は、「令和6年度 魅力ある自治会づくり支援事業補助金」を活用し、自治会自らが創意工夫のもと取り組んだ事例をとりまとめたものです。これから取組を始めようとする自治会へのモデルとしていただけるよう、活動分野別に事例をご紹介します。

※「令和6年度 魅力ある自治会づくり支援事業補助金」の概要は以下のとおりです。

令和6年度 魅力ある自治会づくり支援事業補助金

1 目的

「自治会の魅力を高め、自治会への関心向上と参加意識の醸成を図ること」や「自治会の重要性の理解を図り、加入を勧めること」に「取り組みたい」と考える自治会を支援し、自治会の活性化を図ることを目的とする。

2 補助金概要

(1) 補助交付先

宇都宮市自治会連合会

(2) 事業実施主体

地区連合自治会（単位自治会、NPO、企業等との連携により実施）

(3) 対象となる事業

下記の目的を達成するため、自治会が行う自治会加入促進・活性化に資する以下の取組で継続性のあるものを対象とする。なお、「宮PASS」、「まちづくり活動応援事業」の活用を検討すること

【加入促進】

- ・ 中高層マンションや大規模分譲住宅への加入促進
- ・ 若者や女性と連携した自治会活動
- ・ 学校や事業者と連携した自治会活動 など

【組織運営強化・退会防止】

- ・ 自治会事務の負担軽減を図るアウトソーシング事業
- ・ 地域連携による福祉の質向上
- ・ 地域防災力の向上 など

(4) 補助対象数及び補助限度額

補助対象数：20地区

補助限度額：1地区あたり225千円（市200千円、宇自連25千円）

(5) 補助対象経費

経費	対象とする経費（例）
報 償 費	講師等謝金など
消 耗 品 費	事務用品，コピー用紙などの消耗品など
印 刷 製 本 費	チラシ・パンフレット印刷，会議資料印刷など
通 信 運 搬 費	郵便料金など
賃 借 料	講演会，イベント等の開催会場の使用料や機器等の 借上費など
備 品 購 入 費	事業に必要な事務用品，資器材の購入費など （１０万円未満） ※継続的な活動につなげる備品購入可

目 次

<自治会加入促進>

- ・ 自治会加入促進向上対策事業【清原地区】・・・5
- ・ eスポーツによる自治会活動活性化事業【城山地区】・・・8
- ・ 知ってもらって考えて・広げよう自治会活動の輪【国本地区】・・・10
- ・ 共生社会における再生自治会の基盤づくり【河内地区】・・・12
- ・ 築瀬地域文化祭アップデート事業【築瀬地区】・・・14
- ・ 自治会の継続的な組織運営のための会員加入促進～2024年度 宮の原地区夏まつり～
【宮の原地区】・・・16
- ・ 峰地区自治会活性化のための講演・勉強会及び加入促進祭りの開催【峰地区】・・・18
- ・ 連合会30周年を記念して更なる地域力upを目指す【五代若松原地区】・・・20
- ・ 地区自治会活動の周知啓発・加入促進事業【細谷・上戸祭地区】・・・22

<デジタルの活用>

- ・ デジタルサイネージ（電子看板）を活用した自治会の魅力発信事業【富屋地区】・・・25
- ・ 目指せ デジタル自治会一しもはらのWA！！－【雀宮地区】・・・27

<女性活躍促進>

- ・ 女性視点でまちづくり活動を考える懇談会【城山地区】・・・30
- ・ 今泉おやじの会と女性が活躍できる自治会活動の促進【今泉地区】・・・32

<地域防災力の向上>

- ・ 平石地区防災力充実強化事業【平石地区】・・・35
- ・ 横川地区コミュニティー強化による防災力向上事業【横川地区】・・・37
- ・ 住民同士の助け合いによる地域防災力向上事業【豊郷地区】・・・40
- ・ 自治会公民館へ防災備蓄保管倉庫の整備【上河内地区】・・・42
- ・ 昭和地区オータムフェスティバル（防災減災・交通安全・社会福祉）【昭和地区】・・・44
- ・ 避難所運営のスキルアップと防災備品取り扱い方法の習得【宝木地区】・・・47
- ・ 「さあどうする？いつ起こるか分からない地震」対応マニュアル作成事業【戸祭地区】
・・・49

自治会加入促進

清原地区（清原地区自治会連合会）

自治会加入促進向上対策事業

地域の課題と対応の方向性

- 清原地区の自治会加入率は減少傾向（市平均以下）にあり、「自治会への関心の薄れ」や「自治会機能の低下」などが懸念されている。
⇒ 自治会運営における現状把握や課題分析等を行い、地域ぐるみで課題解決に向けた自治会活動を展開していく必要がある。

事業内容

1 自治会加入促進検討会の開催

- 清原地区内の22自治会を4グループに分け、自治会活動の手引きや過去10年間の自治会別加入率の推移（自治会長調べ）等を参考に、自治会運営や自治会加入促進活動の現状・課題を整理し、自治会への加入促進策について検討した。
 - ・ 日 時：令和6年6月8日（土）10:00～12:00
 - ・ 内 容：①なぜ、自治会に加入しないのか？
②なぜ、自治会を退会するのか？
 - ・ 参加者：自治会長 ほか27名



2 自治会加入促進の取り組み

- 清原地区で開催される地域イベントにおいて、自治会の役割・必要性を紹介するとともに、自治会員の優待制度「宮PASS」の案内など、自治会加入促進PR活動を展開した。
 - ※「宮PASS 提示者へは、各イベントの模擬店で使用できる「おもてなし券（割引券）」を交付（利用者 計945名）
 - ・ 8/17 ライトライン開業1周年記念清原大バトル
 - ・ 9/21 きよとこ 清原マルシェ
 - ・ 11/3 清原地区農業祭・文化祭



- 新築集合住宅入居者へ、自治会加入促進チラシをポスティングするなど、自治会加入への案内を実施
 - ・日 時：10月20日（日）・25日（金）
 - ・場 所：清原台1丁目地内
 - ・戸 数：10戸

3 清原地区「自治会シンポジウム」の開催

- 清原地域内の各種団体と連携した自治会活動が展開できるよう「地域の皆さんと考える」ことを目的に開催
 - ・日 時：令和7年3月9日（土）10:00～12:00
 - ・場 所：清原工業団地総合管理協会（大会議室）
 - ・内 容：①基調講演：「地域団体と連携した自治会活動」
 - ②事例発表：「自治会活動の事例発表」
 - ・自治会運営のデジタル化（清原台2丁目自治会）
 - ・育成会と連携した伝統行事の復活（上籠谷町自治会）
 - ③意見交換：「誰もが参加しやすい自治会づくり」
 - ・参加者：清原地区自治会連合会ほか 14団体（85名）



4 自治会加入促進チラシの作成（3,000部）

- 清原地区自治会連合会で独自に作成した「自治会加入促進チラシ」を活用し、自治会加入促進協強化月間（3～4月）において、自治会加入の呼びかけを実施
 - ※ 清原地区自治会連合会で「宮PASS」提供施設への登録案内を行い、新たに22施設の登録を行いました。



ここがポイント！

- ・自治会加入促進検討会において、過去10年間の自治会別加入率の推移（自治会長調べ）等の具体的なデータを元に、実態把握・課題認識・対応策などを検討した。
- ・自治会シンポジウムにおいて、自治会長をはじめ、子ども会育成会・女性団体・高齢者団体など、多くの地域団体の皆様と、これからの自治会活動等について意見交換を行った。

事業実施による成果・効果

- ・自治会長同士が実際の現場の声を出し合うことで、課題や取り組むべき方向性の共通認識が図られた。
- ・地域の各種団体に参加いただくことで、自治会運営や活動等に対する多様な考え方を収集できた。

次年度以降に向けて

- ・自治会加入促進・脱会防止への継続的な取り組み
- ・地域団体と連携した自治会活動の実践（自治会加入率向上）

問い合わせ先

清原地区市民センター

電話 028-667-5696

城山地区連合自治会

e スポーツによる自治会活動活性化事業

地域の課題と対応の方向性

- 自治会活動に対する理解促進を図るためには、“頑張る自治会”“まちの魅力を高める自治会”をアピールしていく必要がある。
- 自治会が住民、特に若年層にとっては縁遠い存在とされていることから、大人も子供も楽しめるイベントを通して、自治会活動のPRや子供が参加できるボランティア活動の紹介を行う。
- 近年盛り上がりを見せているeスポーツは、高齢者の健康増進にも活用が見込まれることから、eスポーツを取り入れたイベントを企画し、将来的に自治会活動に広く取り入れることができないか合わせて検証する。

事業内容

- 1 開催日時 令和6年11月30日（土）午前10時～午前12時
- 2 開催場所 大谷コネクト（宇都宮市大谷町1271-2）
- 3 来場者数 200人
- 4 主催 城山地区連合自治会
- 5 事業協力 城山地区コミュニティ協議会、同青少年育成会、同体育協会、同地域スポーツクラブ、一般社団法人プチママン・アンジェ、宇都宮大学UUsmash、帝京大学Smash
- 6 事業内容 しろやまeスポーツ運動会
 - ① eスポーツ大会（ぷよぷよeスポーツ）
 - ・ eスポーツプロ選手「飛車ちゅう」さんによるレクチャー後、参加者によるトーナメント式の大会を実施（午前：小学生の部、午後：中学生の部）。
 - ・ 会場内に誰でもできるeスポーツ体験コーナーを設置
 - ② 屋外ブース
 - ・ 宮PASS持参者特典：オリジナルコアラのマーチ「しろやまのマーチ」プレゼント、大谷観光拠点周遊グリーンスローモビリティ無料乗車
 - ・ 自治会活動紹介パネル展示、宮PASS等チラシ配布
 - ・ 市民活動助成基金への募金
 - ③ 屋外ブース
 - ・ 缶バッチづくりコーナー（城山地区青少年育成会）

ここがポイント！

11月30日のeスポーツ運動会に先立ち、11月2日の城山地区文化祭・農業祭の会場においてもeスポーツ体験会を開催した。単発イベントとせず、多くの来場者が訪れる文化祭でeスポーツを体験する機会を設けることで、城山地域全体でeスポーツの楽しさと将来性の理解を進めた。



事業実施による成果・効果



地域活動と普段接点の乏しい若年世代に自治会活動のPRを行うことができた。

反面、地域として馴染みが薄いeスポーツの「大会」と銘打ったことにより、参加者の間口が狭くなるなど、今後のeスポーツ活用に関する知見が得られた。

次年度以降に向けて

今回のイベントのために揃えた機材を使用して、自治会活動等でeスポーツを活用した若年層の呼び込みや、高齢者の健康増進、多世代交流などコミュニティ活性化の事業を展開したい。

問い合わせ先

城山地区市民センター

電話 028-652-4794

国本地区（国本地区連合自治会）

知ってもらって考えて・広げよう自治会活動の輪

地域の課題と対応の方向性

●生活スタイルの変化や価値観の多様化などにより自治会に加入しない世帯や脱退する世帯が増加していることから、地域住民に自治会活動のPRや加入促進に取り組むとともに、地区内各自治会が地域課題を共通理解し課題解決に取り組むきっかけづくりが必要である。

事業内容

1. 「自治会加入キャンペーン」の実施（11・12月を強化月間）

- ①国本地区オリジナル加入促進のぼり作成し、自治公民館や地区市民センターに掲出
- ②くにもとまつり（文化祭・農業祭）で、自治会加入キャンペーンを実施
 - ・自治会相談コーナーの設置
 - ・スタンプラリー抽選会で、宮PASS持参者特典を実施し自治会加入をPR

2. 自治会役員研修の実施（年4回実施）

- ・第1回は自主運営、第2回から4回は、ファシリテーターを委託
- 【第1回】6月1日（土）
- ・自治会長の仕事内容や役割の理解促進、市補助金の説明など
 - ・自治会運営にかかる意見交換を実施し、課題等の共通理解を図る
- 【第2回】8月3日（土）
- ・講師による「自治会や地域活動団体の活動状況、課題等の共通理解
 - ・「地域や自治会をこれからどうしていきたいか」をテーマに意見交換
- 【第3回】10月12日（土）
- ・「自治会に人が集まる仕掛けと未加入者への情報発信」をテーマに意見交換
- 【第4回】12月14日（土）
- ・「人の集まる場所（公民館など）の活用策や自治会未加入者の掘り起こし」をテーマに意見交換、 ※各回とも最後に代表者による発表



ここがポイント！

1. 自治会加入促進のぼりスローガンは、自治会役員研修で検討し2パターン作成
 - ・WE ♥ くにもと 自治会加入でふれあい助け合い
 - ・住み良い地域づくりのために 自治会に加入しましょう！
2. 役員研修会は、国本地区では定期的に自治会役員が集まる機会がなかったため、参加者が各自治会の現状や地域課題等を把握し共通理解を図ること、自治会役員の顔が見える関係性を深めることを主眼において実施

事業実施による成果・効果

《自治会加入キャンペーン》

- ・自治会加入キャンペーンを実施により、地区全体として加入促進への意識が向上するとともに、地域住民へもPRすることができた。
- ・キャンペーンの一環として宮PASSをPRし、持参者にはスタンプラリー抽選会で特典をつけた（1回追加で抽選可）ところ、予想を上回る持参者の来場があった。

《自治会役員研修》

- ・コロナ禍により定期的に自治会役員が集まる機会がなかったが、4回にわたる研修会で勉強会や意見交換などを行うことで、各自治会や地域課題等の把握や共通理解が図れたとともに各自治会役員の関係性が深まった。
- ・外部講師による地域外の活動団体の現状や取組事例などの講義やアドバイスにより、参加した役員が、より自分事として地域課題の把握、課題解決に取り組むきっかけとなった。

次年度以降に向けて

引き続き、地域活動団体の顔の見える関係づくりに努めるとともに、自治会役員研修などを実施し、地域一丸となって自治会の加入促進や課題解決に取り組んでいく

問い合わせ先

国本地区市民センター
電話 028-665-2942

河内地区（河内地区連合自治会）

共生社会における再生自治会の基盤づくり

地域の課題と対応の方向性

● 少子高齢化や人口減少の進展、価値観の多様化等により地域住民の絆や郷土愛が希薄化しつつある。また、自治会未加入者や退会が増加し自治会の持続が危惧されている。近年の国内での頻発する地震等による災害発生を見ると、これまで以上に自治会の役割である向こう三軒両隣の精神「共助」が重要視されつつある。

⇒ 昨年度策定の『若い方からの「魅力ある自治会づくり」』提言集を活用し、地域社会貢献に意欲のある者で構成する「自治会応援隊」の支援を得て、新住民・退会者を含み近隣同士の者が「ふれあい・助け合う自治会」の活性化を推進し、自治会加入を促す。

事業内容

1 自治会内のふれあい催事の開催

- ・ 9月21日に宇都宮青年会議所と共催した「KAWACHIコネクト」では、自治会応援隊との連携や支援を得て、提言を受けたフリーマーケット等を実施
- ・ 「ふれあいパーティー」について、開催に向けた企画支援を継続実施中

2 自治会退会防止と再加入促進

- ・ 自治会退会者・未加入者に対するアンケートを実施（9月～10月）
連合自治会役員及び自治会長等により、自宅訪問・ポスティングにより、13自治会349世帯を対象にアンケートを依頼し、郵送88件、web22件、合計88件の回答を得た。アンケート集計結果は、冊子に集約し各自治会長へ配布
- ・ 自治会退会者・未加入者への自治会再入会等を促すチラシ等の作成と配布

3 若者たちのアイデアを活用し、新たな事業の発掘する活動

- ・ 2月6日に自治会応援隊の会議を開催し、今後の活動スケジュールや活動方針について協議し、応援隊の活動継続を確認



【フリーマーケットの様子】

ここがポイント！

河内地区では、令和5年度に若年層とのワークショップを通じて得たヒントから『若い方からの「魅力ある自治会づくり」提言集』を発行し、「魅力ある自治会の姿」を共有、そして令和6年度に「かわち自治会応援隊」を創設し、提言に基づく活動や新たな事業に取り組み、自治会の魅力向上・活性化を図ることにした。

事業実施による成果・効果

- ・ 自治会応援隊が発足し、若い世代の声をうけ、単一自治会では実施が難しかった「フリーマーケット」の開催が実現でき、地域住民の親睦や協働性を促すことができた。
- ・ 自治会未加入者・退会者を対象としたアンケート調査では、リアルな声を直接聞き、今後の自治会加入・退会防止の手がかりを見出すことができた。

次年度以降に向けて

- ・ 自治会応援隊の活動に取り組み、若者たちのアイデアを活用した新たな事業を発掘して、魅力ある自治会づくりの事業推進を図り、自治会活動の支援を行う。
- ・ 自治会加入促進・退会防止については、単位自治会のみでは対応は困難なことも多いことから、「かわち自治会応援隊」をより充実させ、多くの自治会と協力しながら、活気ある自治会づくりに取り組んでいく。

問い合わせ先

河内地区市民センター

電話 028-671-3201

築瀬地区（築瀬地区連合自治会）

築瀬地域文化祭アップデート事業

地域の課題と対応の方向性

- 築瀬小学校の「霜月祭」と同時開催していた「築瀬地域文化祭」は、地域サークル団体がコロナ感染症の流行時の活動縮小からの復活ができず、また、会員の高齢化が進む中、開催準備の負担増加や参加団体の減少などにより、開催が危ぶまれる状況に陥っている。
⇒ 若い世代の意見を取り入れた新しい文化祭を形づくることにより、継続実施できる体制を構築するとともに、はじめの一步を踏み出し、地域コミュニティの活性化や自治会加入促進を図る。

事業内容

1 大学生等運営者の確保

- ・ 共和大学、他大学（地域内）の学生が参加し、文化祭が活性化した。
- ・ 地域内の高校生ボランティアを募り、運営に参加。地域内の学生であることから、次年度の参加も期待できた。

2 事業継続の体制づくり

- ・ まちづくり活動応援事業へ登録
- ・ 協力者の発掘

【会議等開催日】

- ・ 7/25, 8/5, 8/20, 9/9, 9/20, 10/3
→ コアメンバーによる打合せ
- ・ 10/24 → ボランティアへの説明（午後・夜間開催）
- ・ 11/2 → 開催日 ※雨天開催
- ・ 11/12 → 反省会

3 当日実施内容

- ・ 大学生コーナーとコミュニケーションスペースの連携
→ 駄菓子を販売し、コミュニケーションコーナーで一休み
→ マシュマロ、ウインナー、コッペパンなどをたき火であぶり、コミュニケーションコーナーで食べる。たき火、コミュニケーションコーナーに大人（地元の有志）が付き添い、会話をしながら安全を見守る。
- ・ スポーツコーナーと大学生コーナーの連携
→ どちらのコーナーを利用しても互いにPRし、利用を促す。
→ スポーツコーナーは、大学生が考案したスポーツを参加者が体験

ここがポイント！

- ・ 地域内の大学と連携した事業の計画や、地域在住の大学生・高校生のボランティアを募集し、スタッフとして参加していただく仕組みを構築。
- ・ 地域の大学生・地元大学生・高校生・地域住民ボランティア、自治会、まちづくり組織が連携した事業実施による一体感が生まれた。



事業実施による成果・効果

- ・ 楽しく活発に活動している姿をみせることにより、ボランティア意識の醸成、自治会活動、まちづくり活動への参加意識の高揚がみられた。
- ・ たき火をしたことが無い児童も参加しており、活動に興味を示したことは、大人になってからの自治会加入に繋がる。
- ・ 自治会、まちづくり組織を超えた運営体制の構築ができた。



次年度以降に向けて

- ・ ボランティアとして参加した学生が、来年も参加してくれるとの声がある。文化祭に限らず、若者が魅力を感じる催しを開催することで、若い世代の自治会加入が促進されるネットワークを広げていきたい。



問い合わせ先

中央市民活動センター

電話 028-632-6331

宮の原地区（宮の原地区連合自治会・16自治会）

自治会の継続的な組織運営のための会員加入促進

～2024年度 宮の原地区夏まつり～

地域の課題と対応の方向

- 宮の原地区の自治会加入率（55%）を受け、自治会活動を理解していただき、活発化する為、自治会の加入率を上げる。
⇒ 自治会員は基より非会員にも自治会が地域にどのような役割を担っているか
と行っている活動を理解していただく方法をとって行く。

事業内容

- ・ 令和6年7月27日（土）開催の「宮の原地区夏まつり」のチラシに、自治会活動のパンフレットをのせ、宮の原地区の会員・非会員の全家庭に配布しました。
- ・ イベントの集客を図るために栃木プロレスの公演を依頼しました。栃木プロレスはプロレスの実技展開と交流を通して地域の発展・子どもの非行防止等に貢献している団体です。
- ・ 当日の参加者全員にお楽しみ抽選券（2人に1人が当たる）1500人をプレゼントしました。
- ・ 宮 PASS 持参で一緒に来場した方全員に100円の商品券1500枚を差し上げ、会場に出店しているお店で使えるようにしました。
（宮 PASS は自治会員だけが利用できるものですが、抽選券ブースから宮 PASS ブースの順にしたため、抽選券ブースで会員と一緒にになった非会員のご家族にも全員100円の商品券を利用していただくことが出来ました。



ここがポイント！

初めての企画なので、令和6年度は自治会の活動を細部にわたり説明し、自治会が行っている事業やイベントに参加することで自治会をより一層理解していただくことにした。

事業実施による成果・効果

宮の原地区夏まつりは、「宮の原小学校金管バンドの演奏」、「宇都宮市マスコットミヤリーがやってくる」、「子供お囃子会と宮隠お囃子会の演奏」、「大迫力栃木プロレスの公演」、「参加者全員で踊る日光和楽踊り」に加え、会員・非会員を問わず1500人に「お楽しみ抽選券」と会場に出店しているお店で使える「100円の商品券」を差し上げた企画に自治会員・非会員問わず楽しい1日となりました。お楽しみ抽選会は1万円から3万円のビック商品15点と2人に1人が当たる商品、それに栃木プロレスの選手が最後まで抽選会に参加してくれたため、会場は最高の盛り上がりになりました。

宮の原地区16の自治会はこのようなイベントを含め、各自治会の活動状況を理解していただく努力を重ねてまいります。

次年度以降に向けて

令和7年度も宮の原地区のイベント（夏まつり・体育祭・文化祭・その他の事業）にも会員・非会員が参加できる企画を立案・実行し会員増強に努めます。

- ・5月18日（日）宮の原地区球技大会（バレーボール・ソフトボール）
- ・7月26日（土）宮の原地区夏まつり
- ・10月12日（日）宮の原地区体育祭
- ・10月25日（土）宮の原地区防災訓練
- ・11月15日（土）宮の原地区文化祭

問い合わせ先

中央市民活動センター

電話 028-632-6331

峰地区（峰地区連合自治会）

峰地区自治会活性化のための講演・勉強会及び 加入促進祭りの開催

地域の課題と対応の方向性

- 自治会加入率が全市的に低下する中、峰地区においても自治会の維持及び活動の活性化に向け、今一度自治会内の現状を把握するとともに加入促進に向けた取組を促す必要がある。
 - ⇒ 自治会の原点と現状を再認識する機会の創出
 - ⇒ 具体性のある今後の方向性の模索
 - ⇒ 「宮PASS」のPRにより、利用の拡大及び利用者の反応を収集

事業内容

【第1回】自治会活性化のための講演・勉強会の開催

開催日時：令和6年8月26日（月） 14：00～15：00

会場：峰三公民館

テーマ：激変する環境に自治会はどう対応すべきか
先行事例からその対応策を考える

講師：みやのもり自治会 井上 好昭氏

参加者：自治会長等 計13人

＜開催概要＞

自治会について、現状を再確認するとともに理解を深めるため、講師を招いた講演を行ったとともに、講演後には自治会長同士で役員の高齢化や若者を取り込むためなどについて話し合う意見交換を実施した。

【第2回】自治会加入促進まつり「ふれあいまつり」の開催

開催日時：令和7年3月2日（日） 10：00～14：00

会場：鶏峯神社

＜開催概要＞

地域の「まつり」を峰地区各自治会、宇大生、地元団体の協力により開催し、自治会加入促進に向け「宮PASS」の利用を促す取組により、加入促進を図った。

＜イベントメニュー＞

- ・開催芋煮・お餅・綿あめ・ポップコーン・焼きそば等の販売
- ・和太鼓や宇都宮ジャズの生演奏
- ・宇大生によるノンアルコールカクテルの提供など
- ・宮パス持参で出店商品を100円引き・無料 など

ここがポイント！

① 自治会活性化のための講演・勉強会

講師による講演のほか、日頃から自治会活動に取り組んでいる自治会長同士の意見交換を行ったことにより、各自治会の課題や取組事例などを共有し、課題解決に向けた糸口を議論した。

② 自治会加入促進まつり「ふれあいまつり」

若い世代に自治会活動を知ってもらうためにお祭り時に「宮PASS」ののぼり旗を掲示しPRを行ったとともに、「宮PASS」を提示した方への特典を用意し自治会加入のメリットをアピールした。

事業実施による成果・効果

・講演・勉強会を実施し、自治会長から、加入促進に向けて交流会や親睦会等を実施するなどの声が挙がり、峰地区の現状を再認識できたとともに、自治会長同士の意見交換を行ったことにより、自治会長の更なる意識醸成につなげることができた。



・ふれあいまつりにおいては、子どもと一緒に若い子育て世代の親たちが多く参加してもらえたので自治会の魅力を感じてもらえた。地域っていいもんですねとの声も寄せられました。



次年度以降に向けて

引き続き、人との交流が出来るイベントを開催し、自治会加入促進につなげていきたいと思います。

問い合わせ先

東市民活動センター

電話 028-638-5784

五代若松原地区（五代若松原地区連合自治会）

連合会30周年を記念して更なる地域力 up を目指す

地域の課題と対応の方向性

- 雀宮地区から自立して30年が経過し、中心的に地域活動を担う人材の世代交代が必要な時期となっている。
⇒ 多くが集いあえる事業の構築と新しい人材の役員への登用に努める。

事業内容

- ・連合会設立30周年記念事業を8月25日（日）に若松原中学校体育館周辺で実施。体育館の中では地元合唱団のコーラスやブラスアンサンブルコンサート、チアダンス等のパフォーマンス、周辺ではキッチンカーや宮 PASS コーナー（かき氷・ヨーヨー救い・スーパーボール掬い等が無料）で約300名の参加者が楽しいひとときを過ごした。なお、式典の進行（司会・緞帳係）や宮 PASS コーナーでは若松原中学校の生徒がスタッフとして参加、地域の人たちとの交流を図ることができた。



- ・連合会30周年を冠して、五代若松原地域コミュニティセンターを会場に気象予報士と防災士の資格を持つ福嶋真理子氏の講演会を開催した。テーマは「気象と災害」。



ここがポイント！

- 連合会が雀宮地区から自立して 30 年が経過したが、数回の冠事業を機に 7 自治会という小地区のメリットを活かした活動を実施することで、多世代の交流と地域コミュニケーション力をさらに高めることを目的とする。
- イベント的な事業は多くの人が集いあう貴重な機会である。キッチンカーや宮 PASS コーナーなどこれまでにない賑わいの場として記憶に残るイベントを実施することで、今後の地域活動の指針とする。

事業実施による成果・効果

- 若松原中学校の生徒が敬老の日に「黄ぶな」の折り紙を全ての対象者にプレゼントする等中学生と地域の交流が続いているが、記念事業では約 20 名の生徒がスタッフとして司会進行や宮 PASS コーナースタッフとして活躍してくれた。今後も中学生と交流する機会を様々な活動を通して築いていきたい。

次年度以降に向けて

- これまでも実施してきた記念事業であるが、今回のイベントをきっかけに、より多くの世代が集いあえる事業を模索していくこととする。
- 地元の幼稚園や小中学校を卒園・卒業した人が子育て世代として地域に残る人が比較的多い地区である。地域の事業にはそんな人たちの参加も多く見られるが、新しい事業の構築や新しい人材の役員登用をどう進めていくかが今後の課題である。

地区自治会活動の周知啓発・加入促進事業

地域の課題と対応の方向性

- 転入世帯が増加しつつある当地区において地区自治会連合会および単位自治会の歴史と活動の周知を図り、自治会活動活性化につなげる必要がある。
⇒ 地区自治会連合会の結成 50 周年にあたり、記念誌を発行し全会員世帯に配付する。

事業内容

1. 地区自治会連合会結成 50 周年記念誌の制作、発行

細谷・上戸祭地区自治会連合会結成 50 周年記念誌を制作、発行し、全会員世帯および関係機関に配付することにより、自治会活動の周知啓発を図った。

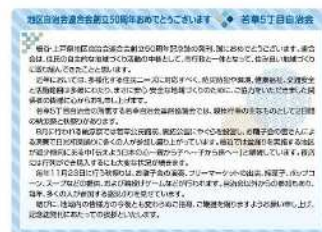
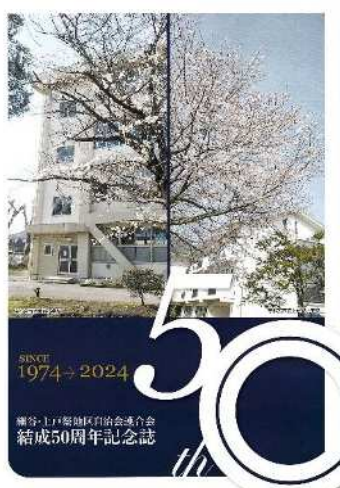
<内容>

- ・市長・議長・宇自連会長の祝辞、地区連合会長挨拶
- ・50 周年記念式典および祝賀会の報告
- ・細谷・上戸祭地区のあゆみ

江戸時代から現在に至るまでの細谷・上戸祭地区の歴史を簡単にまとめ、地域の学校である細谷小学校と上戸祭小学校の沿革にも触れた。また、近年の自治会連合会・まちづくり協議会の活動も振り返った。

- ・各単位自治会の活動紹介

当地区を構成する 15 自治会の各自治会長に、それぞれの歴史や現在の活動に関する寄稿を依頼し、掲載した。



ここがポイント！

予算や作業量等の制約がある中で現状可能な形ではあったものの、上記内容の周年記念誌を発行し全会員世帯に配付することができた。このことにより、

- ・ 地域や自治会に関する意識に濃淡がある新旧住民全体に対して、自治会連合会・単位自治会の歴史や活動の周知を図ることができた。
- ・ 自治会にとどまらない地域全体の歴史を簡潔にまとめた内容を周年記念誌に盛り込んだことで、住民に対して地域をよく知ってもらい地域への帰属意識を高めることにつながった。

事業実施による成果・効果

転入者が増えつつある当地区において、地域の歴史や地区自治会連合会・単位自治会のこれまでの歴史や活動を振り返る資料を全会員世帯に配布することは、地域や自治会への帰属意識を高めることにつながり、地域活動への参画を促す効果が得られた。

また、記念誌の残部は転入世帯への自治会説明資料としても活用できるため、今後の自治会加入促進にもつなげることができると考える。

次年度以降に向けて

今回の記念誌も含む広報活動全般は、自治会活動の可視化・透明化、活動の継続、会員数維持、新規加入促進等において特に重要と思われるので、今後も積極的に取り組んでいく。次年度においては、LINE 公式アカウントを活用し既存の自治会連合会ブログと連動させることにより広報活動・情報提供を強化することについて検討する。

自治会加入促進と会員数維持を主目的としたパンフレットの制作・発行についても、次年度引き続き検討する。

問い合わせ先

北市民活動センター

電話 028-622-7093

デジタルの活用

富屋地区（富屋地区連合自治会）

デジタルサイネージ（電子看板）を活用した 自治会の魅力発信事業

地域の課題と対応の方向性

- 当地区では、高齢化率が40パーセントを超えており、高齢者のみの世帯も多く、自治会脱会や未加入世帯への対応が必要である。
⇒ チラシなどの紙媒体よりも目につきやすいデジタルサイネージ（電子看板）を活用し、富屋地区や自治会の魅力を発信し、自治会加入促進につなげる。

事業内容

チラシやパンフレットなどに比べ、鮮やかで人の目につきやすい映像や情報案内を発信できるデジタルサイネージ（電子看板）を活用し、富屋地区や自治会の魅力を発信する。

【事業経過】

令和6年6月～

- ・機器選定及び購入
- ・デジタルサイネージ（電子看板）設置
設置場所：富屋地区市民センターロビー
サイズ等：55 インチ、自立移動型
- ・発信する情報の収集及びデータ作成
- ・随時、掲載内容を更新
- ・簡易マニュアル作成

※掲載データの縦横調整等の手順

作成した掲載用データを無料のグラフィックデザインツール（Canva）を使用し、デジタルサイネージ用の動画データに調整する。

※A | 読み上げデータ作成手順

音声読み上げソフトでA | 音声データを作成し、動画とともに流す。

誰でも掲載データを作成できるような
マニュアルを作成



ここがポイント！

- デジタルサイネージ（電子看板）の優れた視認性
チラシやパンフレットに比べ、鮮やかで目につきやすい映像（動画）や音声情報を発信できる。
- 自立移動型&データ移行は USB で簡単に可能
来館者の目に留まりやすい位置に自由に移動することができ、何気なく目にした情報から、富屋地区の魅力や自治会活動を知り、自治会活動への参加に関心を持ってもらえる。また、屋外イベント等にも対応できる。



- スタンドはキャスター付なので、移動が楽！



事業実施による成果・効果

- 宇都宮市自治会連合会から配布された自治会加入促進策の「のぼり旗」やチラシなどを、デジタルサイネージ（電子看板）の近くに設置し、繰り返し情報発信することにより、PR 効果が高まった。
- 地域イベントや富屋の魅力を発信できた。

【主な掲載内容】

- 自治会に入ろう！
- 宮 PASS 提示で 100 円 off
（とみやふるさとまつり、とみやそばまつり）
- 宮 PASS スタンプラリー開催
- 富屋地区まちづくりのご紹介 ほか



次年度以降に向けて

- 自治会活動に関心を持てる情報の発信
- 富屋地区まちづくり連絡協議会と協力し、富屋の魅力を発信
- デジタルサイネージ（電子看板）の継続的な利用

次年度以降に向けて

富屋地区市民センター

電話 028-665-1663

雀宮地区（下原自治会）

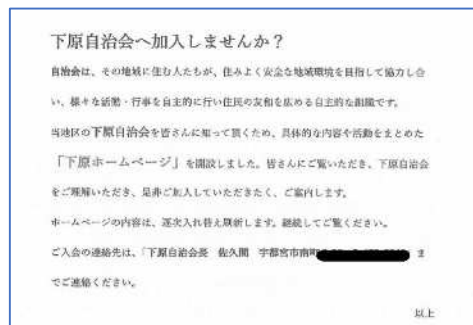
目指せ デジタル自治会 — しもはらのWA!! —

地域の課題と対応の方向性

- 自治会への加入や地域活動への参加を推進するため、自治会活動の理解促進を図るとともに、自治会加入のメリットを感じられる事業を実施する必要がある。
⇒ 下原自治会は独自のHPを作成し、日々の活動の周知や行事開催の案内・実施状況をHPで紹介する新たな取組をすることで、自治会活動の魅力UPを図る。

事業内容

- ・ 自治会活動の迅速で詳細な周知を図るため、「下原自治会ホームページ」を開設した。（開設日 令和6年12月1日）
- ・ 自治会未加入世帯の実態を把握するため、自治会加入に関する調査を各班で実施した。（調査期間 令和7年1月20日～2月14日）
- ・ 地区内にHPの開設を周知するため、HPのQRコードを入れたチラシを作製し各家庭に配布するとともに、自治会未加入世帯には、「自治会への加入のお誘い・HP開設のお知らせ・宇自連の自治会加入のお誘いパンフレット」をセットした案内文を作製・配付し、あわせて地区内の全世帯にHP開設を周知した。（チラシ等配付日 令和7年2月28日～3月1日）
- ・ デジタルデバйд対策として、令和7年度から下原自治会館においてスマホ講習会を開催することとし、「デジタルデバйд対策年間計画」を作成中。



下原自治会HP



※ 地区内への取組紹介

- 雀宮地域広報紙「雀だよりチュンチュン」（令和7年1月25日発行）に自治会内のデジタル化の取組を掲載し周知した。
- 令和7年3月21日の雀宮地区自治会連合会 全体会議において、各自治会長にHP周知チラシ及びその説明文を添付・配付し、取組を周知紹介した。



ここがポイント！

- 自治会未加入者を含めた全世帯に対して、HPのQRコードを入れたチラシや勧誘案内を配付することで、自治会活動の理解と加入促進を図ることができた。
- HP開設や運営に当たっては、若い感性を持つ自治会内外の大学生から、掲載内容等について助言をいただき、今後も継続して自治会運営に関わる関係を築いた。
- デジタルに関する今後の活動が円滑に進むよう、宇都宮市の「地域集会所等建設費補助金」を活用して、自治会館内にWi-Fi環境の整備を行った。

事業実施による成果・効果

- HPでの情報発信・収集を契機として、自治会活動を活性化させ、将来的には地域住民が「孤立・孤独」するリスクへの対応ができるよう、地域の様々な人が参加しやすく、交流する居場所づくりへとつなげていく気運が高まっている。
- 配付したチラシを見て、自治会加入の問い合わせがあった。（令和7年度から加入予定）
- 大学生など若者が、自治会活動に興味を持ち、参加を促すきっかけとなった。

次年度以降に向けて

- 開設したHPに、自治会内の困りごとなどの「意見募集コーナー」の設置に向け研究中。また、サロンや和幸クラブ（老人会）などにおいて高齢者等から情報収集することとしている。
- 収集した情報への対応検討・実行のため、「下原お助け隊（仮称）」の設置を研究・企画中。
- 今後、若い世代にスマホ教室の開催や自治会の運営に関わってもらうことで、自治会活動の活性化や魅力の向上を図っていく。
- 協力してくれる若い人材の確保を図るため、新たな募集を行っていく。

問い合わせ先

雀宮地区市民センター

電話 028-654-1013

女性活躍促進

城山地区連合自治会

女性視点でまちづくり活動を考える懇談会

地域の課題と対応の方向性

- 城山地区連合自治会は地域内25自治会で構成されており、女性の自治会長が少なく、令和6年度は一人になった。
- 各種まちづくり活動団体においても女性役員が少ない状況が続いている。
- 一方で、活動現場においては多くの女性が活躍しており、まちづくり活動に女性が主導的な立場で参画することは不可欠である。
- 女性リーダーの育成のためには、地域活動に取り組む女性を発掘するとともに、そうした人材がリーダーとなるようにしていくことが必要である。
- 本事業では、地域活動に取り組む女性を気兼ねなく話のできる雰囲気場の場に誘い、意見交換など行うことで、女性リーダーの育成のための潜在的課題を洗い出しする。

事業内容

- 1 開催日時 令和6年9月7日（土）午後2時～午後4時
- 2 開催場所 大谷コネクト（宇都宮市大谷町1271-2）
- 3 参加者数 50人
- 4 主 催 城山地区連合自治会
- 5 共 催 城山地区コミュニティ協議会、アコール（宇都宮市男女共同参画センター）、
まちびあ（宇都宮市まちづくりセンター）
- 6 事業内容 まちづくり女子会城山ティーパーティー
第1部
講話 「女性が活躍するまちづくり」
講師 宇都宮大学男女共同参画推進室
特任助教 川面 充子 氏
事例発表 東駒生自治会
自治会長 井上 五七子 氏
第2部
・ワークショップ テーマ「私が今日からできること」
5～6名のグループに分かれて意見交換
○ 参加者 自治会長の推薦 まちづくり組織からの推薦
主な活動 民生委員・児童委員 福祉協力員 自治会役員 等

ここがポイント！

参加者が自由闊達に意見交換をできるような雰囲気づくりを重視し、女性の視点でまちづくり活動の“次の一手を考えるヒントを得る”ことを主眼におき、その他の条件は付さないようにしたことや、地区内に新たに新店したケーキを提供するなど、女子会ティーパーティーとして楽しい催しであることをPRした。

事業実施による成果・効果

参加者募集にあたり、ティーパーティーであることをPRしたことで、地区内から想定よりも多くの参加者を得ることができた。

また、他地区の連合自治会や、日光市、那須烏山市からの参加者が出るなど、関心の高いテーマであることが伺えた。

川面先生の講話は、リーダーシップのスタイルは多様であり、地域活動には女性リーダーが向いている場面が多いことを説かれ、参加者も熱心に聴講していた。

意見交換の場にあっては、参加者の活動分野が多岐にわたり、普段は接点のない女性同士で、活動中の悩みを相談したり意見を交換したりする場となり、参加者にとって満足度の高い懇談会となった。



次年度以降に向けて

女性リーダーを育成するためには、地域活動で女性が活躍しやすい雰囲気づくりが大切であり、また女性の活躍が脚光を浴びる仕組みづくりが必要である。

城山地区には地域活動で活躍している女性が多くいることを改めて認識したところであり、参加者が所属する各種まちづくり団体において、女性が活躍できる環境を整備していけるよう働きかけていく。

問い合わせ先

城山地区市民センター

電話 028-652-4794

今泉地区（今泉地区連合自治会）

まちづくり活動を担う新団体「NEO 今泉」結成

地域の課題と対応の方向性

- 自治会役員の高齢化や担い手不足等により、自治会役員の世代交代や負担の軽減などの課題が生じている。
- あらゆる世代の住民が地域活動に興味・関心を持ち、女性や若手が参画しやすい、自治会活動を身近に感じる機会を創出するため、今泉小学校 PTA OB・OG を中心に活動ジャンルを限定せず幅広い活動を行う新組織を設立し、まちづくり活動の担い手の拡充に取り組む。

事業内容

1. 新組織の発足

(1) 今泉小学校 PTA OB・OG と組織設立に関する意見交換の実施

(2) 新組織の設立

名称：NEO 今泉

活動趣旨：「おやじ」に限定せず、誰もが参加できる「地域に新風を吹き込む活動を目指す」新組織を設立する。（OB、OG のほか、現役小学校 PTA も参加）

設立：令和6年7月 メンバー15名（うち女性3名）

2. 今泉地区連合自治会活動への参加

令和6年 8月24日 夏のタベ・盆踊り【雨天中止】（会場設営補助）

令和6年 9月29日 今泉地区体育祭会（会場設営補助、冷凍みかん販売）

令和6年10月12日 今泉地区花火大会（運営補助）

令和6年11月 9日 今泉地域コミセン祭り（会場設営補助、フランクフルト等の販売）



ここがポイント！

- PTA 活動やこども会活動など子育てを通じて交流していた40～50代世代を中心に会の結成を図ることで、人間関係の再構築や疎遠となった地域活動への参加のきっかけづくりとなった。

事業実施による成果・効果

- 地域イベントなど世代を超えた自治会・まちづくり活動への参加を通じて、地域を支える活動への重要性や地域の活性化、次世代の地域に対する思いなど、新たなまちづくりの担い手の参画や地域活動を考える契機となった。

次年度以降に向けて

- 今泉地区のイベントやまちづくり活動への参加を通じて、当会の存在や活動趣旨を広くPRし、今泉の自治会やまちづくりに興味のある今泉小学校PTA OB やOG、現役PTA 世代などの参画を募り、共に地域を盛り上げる活動を継続して取り組む。

問い合わせ先

東市民活動センター

電話 028-638-5784

地域防災力
の向上

平石地区（平石地区連合自治会）

平石地区防災力充実強化事業

地域の課題と対応の方向性

- 超高齢化の進展や生活スタイルの変化などから、高齢者世帯が自治会を退会する事案や若年層世帯が自治会に加入しない傾向にあり、地域コミュニティの希薄化が進んでいることから、「地域防災」をテーマに地域住民が地域での役割等について自覚を高めるとともに、自助・共助による地域防災力の充実強化を図る必要がある。
⇒ 幅広い世代が「地域防災」と通じて、自助・共助の実効力向上を図るとともに、地域コミュニティの結束・活性化を図る。

事業内容

- ・ 平石地区では、毎年度6月頃に21単位自治会が参加する「平石地区防災訓練」を実施し、情報伝達訓練や防災資機材の点検・確認を定期的の実施するとともに、土砂災害警戒区域に指定された場所を有することを含め、豪雨時等の対応について、共通認識・行動できるよう取組を行っている。
- ・ 近年、超高齢化の進展や生活スタイルの変化などから、地域コミュニティの希薄化が進んでいることから、幅広い世代が「地域防災」と通じて、自助・共助の実効力向上を図るとともに、地域コミュニティの結束・活性化を図る。
- ・ 防災士を講師として開催した「防災講座」は、働き世代にも参加しやすいよう、開催日を日曜日の夕刻に設定したほか、聴講だけではなく、防災知識をゲーム感覚で習得できるような工夫を図り、全員参加型の内容とした。
- ・ 災害時の対応として、必要な防災資機材を整備するなど、地域防災力の充実強化を図った。



ここがポイント！

- ・ 平時・災害時ともに日頃から意識・実効力を備えておくことは重要であり、特に、近隣世帯や自治会、地区防災会との連携が必要不可欠であることから、改めて自助・共助の大切さを認識し、地域コミュニティの活性化を図っていく。

事業実施による成果・効果

- ・ 「防災講座」を日曜日の夕刻に開催したことによって、参加者は46人となり、うち、自治会未加入者6人の参加があった。
- ・ 参加者からは、改めて、自助・共助による地域防災力の充実が、生命・財産を守ることに繋がり、連帯意識を持って対応していく重要性が理解できたとの声をいただいた。
- ・ 自治会未加入者からは、地域で取り組む防災対策や危険個所を知る機会となり、大変勉強になったこと、改めて、地域コミュニティの重要性を認識できたとの声をいただいた。
- ・ 地域防災拠点となる平石地区市民センターに、地域で利用できる防災資機材等の充実強化が図れたことは、地域の安全・安心につながられた。

次年度以降に向けて

- ・ 地域住民が安全・安心して暮らしていくためには、地域現状に応じた「地域防災力の充実」は必要不可欠であることから、より多くの地域住民に対し、防災意識の浸透を図り、地域コミュニティの重要性の認識を向上させていきながら、より一層の地域活性化を図っていく。

問い合わせ先

平石地区市民センター

電話 028-660-1964

横川地区（横川地区連合自治会・横川地区防災会）

横川地区コミュニティ強化による防災力向上事業

地域の課題と対応の方向性

- 横川地区において地域住民一人ひとりの防災意識の一層の醸成を図るためには、日頃から繰り返しの啓発活動を行うことが必要である。
⇒ 地域内関係団体や住民を対象とした防災訓練、イベントを通じての啓発や防災に関する情報発信を実施する。

事業内容

1 横川地区防災計画の策定（令和6年6月）

- ・ 地区の防災力を高めるために必要な避難行動や避難所運営の役割分担、防災訓練、資機材の備蓄など、災害時の対応の指針となる計画を自治会長・各種団体役員に説明し、策定した。（計画書は地区まちづくり協議会 HP に掲載し、だれでも見る事が出来るようにした。）



2 防災のしおり・ポスターの作成

- ・ 地域住民の皆様の防災意識の醸成を図るため、横川地区に特化した「しおり」を作成し、自治会加入の方に配布した。自治会員以外の方についても、民生委員や地区包括支援センター等の協力をいただき、地域の方々へ広く配布した。
また、「ポスター」を作成し、自治会公民館・学校・福祉施設等多くの方が利用する場所へ貼布していただくよう配布した。

【横川地区防災ポスター】

【横川地区防災のしおり】



3 地域イベントにおける防災に関するPR活動

- 地域の皆さまが多数来場する「横川ふれあいまつり」（11月3日）において、防災に関するPRブースとして、身近な材料を使って防災用品をつくるコーナー（ビニール袋を使ったレインコート、新聞紙スリッパ）を設けて防災知識の普及を行った。



【新聞紙スリッパ】



【ビニール袋レインコート】



ここがポイント！

1 横川地区防災のしおり・ポスターの作成

- 横川地区に特化したハザードマップ、各世帯等で備蓄してほしい物品、避難所までの経路確認、SNSを活用しての各種災害情報など掲載内容を絞り、分かりやすいレイアウトとした。
- しおりは少し厚手の紙を使うとともに、左上に穴をあけ、各家庭などでの保存版として使用してもらうよう工夫した。
- 配布にあたっては、全戸配布を想定し、自治会員以外は民生委員や地域包括センター等に協力を得て配布を進めた。

2 地域イベントにおける防災に関するPR活動

- 「横川ふれあいまつり」での防災に関するPRとして、身近な材料を使って防災用品をつくるコーナーを設け、ビニール袋を使ったレインコートと新聞紙スリッパの作成を中学生ボランティアが指導役を担い、楽しく、手軽に防災グッズが作成できることで防災意識の醸成につなげた。

事業実施による成果・効果

- ・ 地区防災計画について、自治会や各組織・団体が意見を交換し、各組織・団体の役割の明確化が図れたとともに、平常時における活動と非常時における活動が、また、防災対応については、自助への備え、共助によるご近所とのつながりが大切であることの共通認識を図ることができた。
- ・ 横川地区防災のしおり・ポスターの作成・配布が、防災知識周知活動の有効なツールとなり得ることを認識した。しおりについては、今後とも地域（特に自治会未加入者）への周知媒体として有効に活用していく。
- ・ イベント等での防災 PR 活動については、地域の皆様が多く来場されることから、楽しみながら学べるような内容としたことで、防災が難しいものではなく気軽に体験・習得できた取組となった。

次年度以降に向けて

- ・ 横川地区防災計画に基づき、自治会長や各組織・団体の取組が円滑にできるよう、防災訓練や各種会議等を通し、計画内容の周知・醸成に努めていく。
- ・ 横川地区防災のしおり・ポスターを活用して、引き続き地域内への周知・啓発を行っていく。
- ・ イベント等を活用した防災PRについて、自助としての取組（日常備えておく物品や避難所への経路）とともに、共助としてご近所のつながりの必要不可欠であることへの認識の醸成を進めていく。
- ・ 災害情報や防災に関する周知の手法について、引き続きSNSを活用していくとともに、まちづくり協議会HPや地域情報紙を活用し、地域住民の皆様へ積極的に発信していく。

問い合わせ先

横川地区市民センター
電話 028-656-6452

豊郷地区（豊郷地区連合自治会）

住民同士の助け合いによる地域防災力向上事業

地域の課題と対応の方向性

- 豊郷地区は、土砂災害特別警戒区域を有し、また過去に河川溢水を経験していることから、内閣府が勧める「地区防災計画」の策定を通じ、地域防災力の向上を基軸とした住民同士の「共助」の意識高揚を図ることが必要である。
⇒ 地区防災計画をより実効性のある計画とするため、時系列に応じて、「いつ」、「だれが」、「どのような対応をするのか」を明確にした「地域タイムライン」を作成し、地区防災計画に加え、住民同士の助け合いによる地域防災力の向上を図る。

事業内容

- ・ 連合自治会、豊かな郷づくり推進協議会、地区防災会、さらには豊郷生涯学習センターと連携し、「地域防災力UP講座」を契機に「地区防災計画」の策定（改定）を行った。
 - ・ 8つのブロックごとに「地域タイムライン」を作成し、地区防災計画に加えることで、実効性のある地区防災計画に改定した。
- 防災力UP講座（8月11日開催）
- ・ 主催：豊郷地区連合自治会、豊かな郷づくり推進協議会、豊郷地区防災会、豊郷生涯学習センターが共催
 - ・ 内容：地域タイムラインの作成
（発災時における、時系列に応じた地域団体の行動の洗い出し）



- わくわく体験教室（10月5日開催）
 - ・ 対象者：地区内の小学校4年生・5年生
 - ・ 内 容：地区内のハザードマップの作成，小学生でもできる発災時の行動の洗い出し

- 地域タイムライン完成



ここがポイント！

地元の帝京大学坪井望太郎教授（防災アドバイザー）のご助力をいただきながら，連合自治会，豊かな郷づくり推進協議会，地区防災会が連携し，時系列に基づく各団体の活動を反映した「地域タイムライン」を作成したことにより，各団体の役割を明確にすることができた。

事業実施による成果・効果

時系列に応じて，「いつ」，「だれが」，「どのような対応をするのか」を明確にした「地域タイムライン」を加えたことにより，さらに実効性の高い地区防災計画に改定することができた。

次年度以降に向けて

自治会ごとの防災訓練などの機会に「地域タイムライン」を活用し，住民同士の助け合いによる地域防災力の向上を図っていく。

問い合わせ先

豊郷地区市民センター
電話 028-660-2340

上河内地区（上河内地区自治会連合会）

自治会公民館へ防災備蓄保管倉庫の整備

地域の課題と対応の方向性

- 当地区では、令和3年度に防災業務に携わる関係者全員に「防災計画・防災マニュアル」を配布し、これをもとに防災研修と訓練を実施し、令和4年度には「マイタイムライン」を、令和5年度には「防災避難指針」を作成・配布し、災害時に自らの命を守る避難行動を周知してきたところである。

浸水区域や土砂災害警戒区域が多数指定されている当地区においては、災害時に集落が孤立する可能性のある地区公民館への、防災備蓄品の整備・拡充が急務となっている。

事業内容

- ★ 上河内地区では、避難所である地区市民センター等への避難の際には、道路の損壊、橋の落下、がけ崩れなどに加えて、遠距離や高齢化等により困難が想定されることから、一時避難所である地区公民館に避難することを想定し、今回、備蓄保管庫を整備した。

1 整備公民館

- ・ 東部地区：西芦沼公民館（遠距離、土砂災害警戒区域あり）
- ・ 西部地区：小室公民館（遠距離、土砂災害警戒区域あり）
謡辻公民館（遠距離、土砂災害警戒区域あり、孤立の恐れ）

2 備蓄整備品

- ・ 毛布
- ・ 簡易トイレ（個人用トイレ TENT、トイレ凝固剤セット）
- ・ 水（飲料水）

3 今後の課題

- ・ その他、危険区域自治会への整備拡大
- ・ 備蓄品の拡充

4 その他

- ・ 災害時に係る勉強会等の開催

① 防災訓練 令和6年9月29日(日)開催

中央小学校区内の各自治会長、災害対策隊員等による各種訓練の実施

② 研修会 令和6年12月17日(日)

「ハザードマップ活用に係る研修会」の開催

自治会長や防災会役員、災害対策隊員等の参加で研修会開催

ここがポイント！

上河内地区において、令和3年度の防災関係者による「防災マニュアル」等の整理に続き、令和4年度には各家庭における防災行動として「マイタイムライン」を活用、そして令和5年度に自らの命を守る「防災避難指針」の作成・配布により、上河内地区の防災意識の醸成を継続的に実施してきた。

令和6年度は、孤立等の恐れのある一時避難所となる地区公民館に、備蓄保管庫を整備し、毛布や水などの防災備蓄品を収納し緊急時の対応を図った。

事業実施による成果・効果

これまでの取り組みにより、個々の住民が防災の自助力を高め、また、自治会の防災訓練等において防災意識を向上させることができた。

今回、孤立等により一時避難所となる公民館に備蓄品を保管することで、地域住民の安全・安心の向上を図ることができた。

次年度以降に向けて

上河内地区は地勢上、災害警戒区域等が多く存在することから、自治会も多数にわたり、今回の備蓄品の整備を契機に地区の訓練等を促して、他の危険地区の公民館にも拡充して地域の安全・安心を図っていく。

問い合わせ先

上河内地区市民センター

電話 028-674-3131

昭和地区（昭和地区連合自治会）

昭和地区オータムフェスティバル （防災減災・交通安全・社会福祉）

地域の課題と対応の方向性

- 「災害時における避難情報の伝達，幅広い啓蒙の必要性」を強く感じたため，避難方法の周知啓発の取組として「安心安全フェア」を開催し，地域住民に広く周知することにより自治会活動，団体活動への関心と自分自身への防災，減災，交通安全，社会福祉の意識の更なる醸成を図る。

また，自助・共助の意識を若者世代にも関心，興味を持たせる機会を創出するとともに，参加者同士のコミュニケーションを高め，自治会加入のメリットをアピールする。

事業内容

- 主催団体：自主防災会，交通安全推進協議会，社会福祉協議会，連合自治会
- 開催日：2024年11月23日
- 参加人数：約300名
- 場所：昭和小学校体育館および校庭

【体育館内の活動】

- 防災
 - 南海トラフ地震、首都直下地震の減災方法スクリーン放映
 - 避難所での備品紹介
 - ヘルメット配布(シミュレーション体験)，非常食配布，野菜配布，防災関連グッズ配布
- 交通
 - 模擬自転車運転走行(街中)
 - 自動車模擬試験
- 福祉
 - お薬相談
 - 体組成計により自分の体を知る
 - 骨密度測定により骨の現状を知る
- 地域包括支援センター相談コーナー
- 文星芸術大の学生ボランティア
似顔絵作成コーナー



【校庭の活動】

• 福祉

- 福祉機器体験(車椅子、白杖、セニアカー)
- 福祉車両体験 (栃木トヨタ協力)

• 娯楽

- 射的体験 (射的協会協力)
- クラシックカー24 台展示
- キッチンカー2 台による販売
- 昭和こどもお囃子演奏



• 自治会

- 加入促進ブース
- 非常食 200 食配布



イベント開催に向けた周知を、未加入者を含めた全世帯に行い、キッチンカーの出店・野菜や非常食配布に当たっては、「宮PASS」を活用し、自治会加入メリットをアピールする。

「宮PASS」を即時交付できるよう、会場に自治会加入促進ブースを設置。

～宮 PASS 特典～

- キッチンカー販売 200 円割引
- 似顔絵作成 200 円割引
- 非常食配布時に宮 PASS 特典全種類配布 (宮 PASS なしは一部配布)



アンケート結果！

・宮 PASS の認知度と活用度:

- 20 代～40 代女性: 全員知っており, 利用している (主にファーストフード等)
- 50 代～60 代男性: 8 割が知っており, 主に妻が利用。
- 70 代以上の男女: 女性は 9 割が知っているが, 男性は 1 割のみ知っている。
- 70 代以上は男女ともに利用していない (9 割、特に男性)

利用しない理由:

身近に健康に役立つ店舗がない。

飲食以外の特典があれば利用する可能性がある。



事業実施による成果・効果

- ・ イベントを通して宮 PASS 特典を周知でき, 自治会活動が理解された。
- ・ 次世代を担う若者(後継者)の発掘もでき, 住民参加のコミュニケーションが図れた。
- ・ 健康, 福祉, 交通安全, 防災団体の取組が地区として住民に理解された。
- ・ 自治会活動の見える化と若い世代の自治会参加を促し, 地域コミュニティの活性化を推進するとともに, 担い手育成も推進できた。

次年度以降に向けて

アンケートで次回開催する時参加の可否を聞いたところ, 「ぜひ参加」が9割であり, 継続的にイベントを実施しながら, 団体連携により自治会活動を啓発し魅力ある自治会活動としたい。

問い合わせ先

宇都宮市中央市民活動センター

電話 028-632-6331

宝木地区（宝木地区自治会連合会）

避難所運営のスキルアップと防災備品取り扱い方法の習得

地域の課題と対応の方向性

災害発生時に円滑かつ迅速な対応を確保できるようにするため、防災知識を身に着けること、防災備蓄備品をすぐに使用できるようにすることが必要である。

⇒HUG（避難所運営ゲーム）の実施及び防災備品の使用体験の場をつくる。

事業内容

1 HUG（避難所運営ゲーム）の実施

HUGにより実践的な避難状況を考慮しながら、避難所生活に必要な空間・設備・区割り等を考え、実践に役立てるよう避難所運営のスキルアップをする。

参加人数 33人



2 防災備品の体験と確認

- ・購入した防災備品の使用と確認を各自治会の防災担当者に体験してもらい、災害時速やかに利用できるようにする。
- ・既存の宝木小学校防災倉庫の内容・配置を確認する。

＜発電機＞



＜LED 投光器＞



＜エマージェンシーシート＞



ここがポイント！

HUG は、避難所運営を考えるためのアプローチである。

実践的な避難所運営を疑似体験ができるものであり、グループに分かれての演習となるため、参加者同士の交流や連帯感が生まれ、より実践的な避難状況を考慮しながら、避難所生活に必要な空間・設備・区割り等を考え、実践に役立てるよう避難所運営のスキルアップを図ることができる。

災害発生時には、避難所運営に誰もが携わることが想定されるため、多くの地域の人々が「自分の問題」としてとらえる機会とした。

事業実施による成果・効果

災害時には、自治会加入・未加入を問わず、避難所で過ごすことになる。自治会が防災対策など、安全で安心な地域づくりのために重要な役割を担っていることを理解してもらい、自治会の加入促進につなげていく。

次年度以降に向けて

防災備品の知識・取り扱い体験を通して、課題や不足する物品などを把握し、強化することにより、地域防災力を向上させ、加えて防災講習を体験通じて、地域の人々の災害に対する意識をより強めていきたい。

この HUG の体験により、災害時にはさまざまな状況が考えられるため、防災会としても内容を精査し基本的な方向性を検討していく。

問い合わせ先

北市民活動センター

電話 028-622-7093

戸祭地区（戸祭地区自治会連合会・地区四丁目自治会）

「さあどうする？いつ起こるか分からない地震」

対応マニュアル作成事業

地域の課題と対応の方向性

●災害で一番身近に発生すると思われる地震から住民の命を守るため、行動指針のマニュアルを作成し全世帯に配布することにより、防災意識を醸成し、災害への備えの充実を図る。

事業内容

マニュアル作成に当たっては、自治会役員を中心に住民及び近隣の専門学校等にも参画を依頼し、誰でも分かりやすいマニュアルとする。また、マニュアルを戸祭地区の他の自治会でも活用してもらえよう近隣の自治会にも情報提供する。

○防災マニュアル作成プロジェクトの立ち上げ

- ・作成マニュアルの種類、内容、期限、日程等をあらかじめ決めるための「マニュアル作成プロジェクト」を立ち上げ、定期的に14回開催。

○マニュアル原案作成と地図情報の収集、調査実施

- ・8回のプロジェクト会合にてマニュアルの種類と内容の原案を決定

＜作成防災マニュアルの種類＞

- (1) 災害に備える準備編 (2) 地震編
- (3) 防災地図（地区別の3種類） (4) 緊急時情報シート

- ・自治会及び育成会の父兄と子ども達で地区内を歩いて調査を実施した。



○防災マニュアル、地図、緊急時情報シートの作成

- ・防災マニュアル、地図の完成イメージ検討会を3回開きイメージを決定
- ・イメージを具現化するため、専門学校の先生、生徒に作成依頼
- ・作成に当たり担当者全員の Line グループを立ち上げ、Line にてデータを共有

○防災マニュアル完成報告会の開催

- ・関係部門の来賓者及び自治会役員、会員の皆様に参加いただき「防災マニュアル完成報告会」を開催
- ・マニュアルは自治会全世帯に4月の総会時に配布できるよう手配

ここがポイント！

○協働による作成

- ・自治会や育成会に加え、宇都宮メディアアート専門学校と連携を図り、マニュアル作成を進めた。
- ・子ども達と父兄によるまち歩きを行い、自治会内の危険個所の確認を行った

○防災マニュアルの特長

- ・イラストを多用（宇都宮メディアアート専門学校学生がイラスト作成）
- ・チェックリスト（災害に備えるために準備するものを明記）
- ・シール版（各家庭の冷蔵庫などに貼ることができる）

事業実施による成果・効果

- ・協働によるマニュアル作成により、会員間の繋がりがより強固なものとなったことに加え、育成会、専門学校などの連携を図ることができた
- ・緊急時の連絡や行動について、会員に明確に示すことができた。



次年度以降に向けて

- ・マニュアルに記載したことを実践するための防災訓練を実施する。
- ・自治会の誰もが自治会情報を検索できるよう、自治会ホームページの立ち上げの検討を進める。

問い合わせ先

北市民活動センター
電話 028-622-7093



完成報告会



UTSUNOMIYA



UTSUNOMIYA



UTSUNOMIYA

【問い合わせ先】

宇都宮市 市民まちづくり部 みんなでまちづくり課

電話 028-632-2900

宇都宮市自治会連合会事務局

電話 028-632-2289